



TITLE:

Torsion subgroups of elliptic curves in elementary abelian 2-extensions of \mathbf{Q} (Algebraic Number Theory and Related Topics)

AUTHOR(S):

藤田, 育嗣

CITATION:

藤田, 育嗣. Torsion subgroups of elliptic curves in elementary abelian 2-extensions of \mathbf{Q} (Algebraic Number Theory and Related Topics). 数理解析研究所講究録 2004, 1376: 85-91

ISSUE DATE:

2004-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/25620>

RIGHT:

Torsion subgroups of elliptic curves in elementary abelian 2-extensions of \mathbf{Q}

東北大学大学院理学研究科 藤田 育嗣 (Yasutsugu Fujita)

Mathematical Institute of Tohoku University

1 序

E を有理数体 \mathbf{Q} 上定義された楕円曲線とすると、Mazur の定理により、群 $E(\mathbf{Q})_{\text{tors}}$ は次のいずれかに同型である：

$$\begin{aligned} \mathbf{Z}/N\mathbf{Z}, & \quad N = 1, \dots, 10, 12, \\ \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/2N\mathbf{Z}, & \quad N = 1, 2, 3, 4. \end{aligned}$$

F を \mathbf{Q} の最大初等アーベル 2 拡大体、即ち、 $F := \mathbf{Q}(\{\sqrt{m} : m \in \mathbf{Z}\})$ とすると、楕円曲線 E/\mathbf{Q} の F 上の torsion 部分群 $E(F)_{\text{tors}}$ は、高々 31 種類しかないことが知られている：

定理 1.1. ([3, Theorem]) E を \mathbf{Q} 上定義された楕円曲線とし、 $F := \mathbf{Q}(\{\sqrt{m} ; m \in \mathbf{Z}\})$ とおく。このとき $E(F)_{\text{tors}}$ は次の 31 種類の群のいずれかに同型である：

$$\begin{aligned} \mathbf{Z}/2^{a+b}\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/2^a\mathbf{Z}, & \quad a = 1, 2, 3, b = 0, 1, 2, 3, \\ \mathbf{Z}/2^{a+b}\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/2^a\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/3\mathbf{Z}, & \quad a = 1, 2, 3, b = 0, 1, \\ \mathbf{Z}/2^a\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/2^a\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/5\mathbf{Z}, & \quad a = 1, 2, 3, \\ \mathbf{Z}/2^a\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/2^a\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/3\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/3\mathbf{Z}, & \quad a = 1, 2, 3 \end{aligned}$$

または $\{O\}, \mathbf{Z}/3\mathbf{Z}, \mathbf{Z}/3\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/3\mathbf{Z}, \mathbf{Z}/5\mathbf{Z}, \mathbf{Z}/7\mathbf{Z}, \mathbf{Z}/9\mathbf{Z}, \mathbf{Z}/15\mathbf{Z}$.

しかしこれらの 31 種類の群すべてが $E(F)_{\text{tors}}$ として実現されるかどうかは知られていない。

ここでは、 $E(F)_{\text{tors}}$ としてちょうど 20 種類の可能性あることを示す。

定理 1. E を \mathbf{Q} 上の楕円曲線とし, $F := \mathbf{Q}(\{\sqrt{m}; m \in \mathbf{Z}\})$ とおく. このとき $E(F)_{\text{tors}}$ は次の 20 種類の群のいずれかに同型である:

$$\begin{array}{ll} \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/2N\mathbf{Z}, & N = 1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, \\ \mathbf{Z}/4\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/4N\mathbf{Z}, & N = 1, 2, 3, 4, \\ \mathbf{Z}/2N\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/2N\mathbf{Z}, & N = 3, 4 \end{array}$$

または $\{O\}, \mathbf{Z}/3\mathbf{Z}, \mathbf{Z}/3\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/3\mathbf{Z}, \mathbf{Z}/5\mathbf{Z}, \mathbf{Z}/7\mathbf{Z}, \mathbf{Z}/9\mathbf{Z}, \mathbf{Z}/15\mathbf{Z}$. しかもこれらの各群を $E(F)_{\text{tors}}$ として実現するような \mathbf{Q} 上の楕円曲線 E が存在する.

記号. $F := \mathbf{Q}(\{\sqrt{m}; m \in \mathbf{Z}\})$;

\mathcal{O}_F : F の代数的整数のなす環;

E^D : E の D -quadratic twist (D : square-free な整数).

A を有限生成アーベル群, p を素数とするとき,

A_{tors} : A の torsion 部分群,

$A_{(p)}$: A_{tors} の p シロー部分群,

$A_{(2')}$: A_{tors} の奇数位数の元の集合

とかく.

2 巡回群でない場合

E を \mathbf{Q} 上定義された楕円曲線とする. $E(\mathbf{Q})_{\text{tors}}$ が巡回群でない場合には, torsion 部分群 $E(F)_{\text{tors}}$ は完全に分類できる.

定理 2.1. [1, Theorem 1] E を

$$E: y^2 = x(x+M)(x+N), \quad M, N \in \mathbf{Z}, M > N,$$

で定義された \mathbf{Q} 上の楕円曲線とする. $\gcd(M, N)$ を square-free な整数 または 1 と仮定する. このとき $E(F)_{\text{tors}}$ は次のように分類される:

(a) $E(\mathbf{Q})_{\text{tors}} \simeq \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/8\mathbf{Z}$ のとき, $E(F)_{\text{tors}} \simeq \mathbf{Z}/4\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/16\mathbf{Z}$.

(b) $E(\mathbf{Q})_{\text{tors}} \simeq \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/6\mathbf{Z}$ のとき, $E(F)_{\text{tors}} \simeq \mathbf{Z}/4\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/12\mathbf{Z}$.

(c) $E(\mathbf{Q})_{\text{tors}} \simeq \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/4\mathbf{Z}$ のとき, $E(F)_{\text{tors}} \simeq \mathbf{Z}/4\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/8\mathbf{Z}$ または $\mathbf{Z}/8\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/8\mathbf{Z}$. この場合, M, N ともに squares であると仮定してよい. このとき, $E(F)_{\text{tors}}$

$\simeq \mathbf{Z}/8\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/8\mathbf{Z}$ となるための必要十分条件は, $M - N$ が square となる (このことは $E^{-1}(\mathbf{Q})_{\text{tors}} \simeq \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/4\mathbf{Z}$ なることと同値である) ことである.

(d) $E(\mathbf{Q})_{\text{tors}} \simeq \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/2\mathbf{Z}$ のとき, $E(F)_{\text{tors}} \simeq \mathbf{Z}/4\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/4\mathbf{Z}$, $\mathbf{Z}/4\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/8\mathbf{Z}$, $\mathbf{Z}/8\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/8\mathbf{Z}$, $\mathbf{Z}/4\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/12\mathbf{Z}$ または $\mathbf{Z}/4\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/16\mathbf{Z}$. この場合, $E(F)_{\text{tors}} \simeq \mathbf{Z}/4\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/4\mathbf{Z}$ となるための必要十分条件は, すべての square-free な整数 D に対して $E^D(\mathbf{Q})_{\text{tors}} \simeq \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/2\mathbf{Z}$ となることである. そうでないとき, $E(F)_{\text{tors}}$ は $E^D(\mathbf{Q})_{\text{tors}} \not\simeq \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/2\mathbf{Z}$ なる D に対して $E^D(\mathbf{Q})_{\text{tors}}$ ($E^D(\mathbf{Q})_{\text{tors}} \simeq \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/4\mathbf{Z}$ なる場合にはさらに $E^{-D}(\mathbf{Q})_{\text{tors}}$) の type(s) のみに依存して決まる.

定理 2.1 の証明は, 主に次の 3 つの補題を使ってなされる.

補題 2.2. ([2, Theorem 4.2, p. 85]) k を標数が 2, 3 でない体, E を

$$E: y^2 = x(x + \alpha)(x + \beta), \quad \alpha, \beta \in k,$$

で定義された k 上の楕円曲線とする. このとき, 点 $P = (x, y) \in E(k)$ が $E(k)$ に 2 等分点をもつための必要十分条件は, $x, x + \alpha, x + \beta$ がすべて k で squares となることである.

補題 2.3. [1, Lemma 3.1] $R := \mathbf{Z}[\{\sqrt{m}; m \in \mathbf{Z}\}]$ とおく. 非負整数 d に対し, \mathcal{O}_F の元 a の \mathbf{Q} 上の次数が 2^d ならば, $2^d a \in R$ となる.

補題 2.4. [1, Lemma 3.2] \mathcal{O}_F の元 a , 奇素数 l , 非負整数 i に対し, \mathcal{O}_F において, もし $l^i \sqrt{l}$ が a^2 を割り切るならば, l^{i+1} もまた a^2 を割り切る.

注意 2.5. $E(\mathbf{Q})_{\text{tors}}$ が巡回群でない場合には, より一般に F に含まれる任意の代数体 K に対して, E/\mathbf{Q} の torsion 部分群 $E(K)_{\text{tors}}$ を M, N を使って分類することができる ([1, Section 5]). 特に, $E(\mathbf{Q})_{\text{tors}}$ と $E(F)_{\text{tors}}$ の “間” の各 type を $E(K)_{\text{tors}}$ として実現するような楕円曲線 E/\mathbf{Q} と体 $K = \mathbf{Q}(\sqrt{D_1}, \dots, \sqrt{D_n})$ ($n \leq 4$) が存在する.

3 巡回群の場合

本節では, 定理 1.1 に現れる群で定理 1 にあげられていないものは $E(F)_{\text{tors}}$ として実現され得ないことを示す.

次の補題は, 補題 2.3 と 2.4 を使えば容易に示される.

補題 3.1. 任意の 0 でない整数 D に対し, $\sqrt{D\sqrt{-1}}$ は F で square でない.

$E(F) \supset \mathbf{Z}/2\mathbf{Z}$ ならば $E(\mathbf{Q}) \supset \mathbf{Z}/2\mathbf{Z}$ であることに注意すれば, 補題 2.2 と 3.1 を使って次が示される.

命題 3.2. $E(\mathbf{Q})_{\text{tors}}$ が巡回群ならば, $E(F) \not\supset \mathbf{Z}/8\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/8\mathbf{Z}$ が成り立つ.

除くべき群は, 残り 4 types である.

命題 3.3. E を \mathbf{Q} 上の楕円曲線とすると, $E(F)_{\text{tors}}$ は次のいずれとも同型になり得ない:

$$\mathbf{Z}/4\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/32\mathbf{Z}, \mathbf{Z}/4\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/24\mathbf{Z}, \mathbf{Z}/12\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/12\mathbf{Z}, \mathbf{Z}/4\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/20\mathbf{Z}.$$

証明は, 次の補題を使って, 次数 2 の \mathbf{Q} -isogeny により $E(\mathbf{Q}) \supset \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/2\mathbf{Z}$ なる場合に帰着させることによってなされる.

補題 3.4. $E(\mathbf{Q})_{\text{tors}}$ が巡回群のとき, $E(F) \supset \mathbf{Z}/4\mathbf{Z}$ であるための必要十分条件は, $E^D(\mathbf{Q}) \supset \mathbf{Z}/4\mathbf{Z}$ となるような D (square-free な整数または 1) が存在することである.

例えば, もし $E(F)_{\text{tors}} \simeq \mathbf{Z}/12\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/12\mathbf{Z}$ と仮定すると, 補題 3.4 によって $E(\mathbf{Q})$ は位数 4 の点 P を含むと仮定してよい. $E' := E/\langle [2]P \rangle$ とおくと,

$$E'(\mathbf{Q}) \supset \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \quad \text{かつ} \quad E'(F) \supset \mathbf{Z}/3\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/3\mathbf{Z}$$

となるが, これは定理 2.1 に反する. 従って $E(F)_{\text{tors}} \not\supset \mathbf{Z}/12\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/12\mathbf{Z}$ が分かる.

4 定理 1 に現れる群の例

[3] ですでに,

$$\mathbf{Z}/5\mathbf{Z}, \mathbf{Z}/7\mathbf{Z}, \mathbf{Z}/9\mathbf{Z}, \mathbf{Z}/15\mathbf{Z}, \mathbf{Z}/3\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/3\mathbf{Z}, \mathbf{Z}/6\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/6\mathbf{Z}$$

の各 type を $E(F)_{\text{tors}}$ として実現するような楕円曲線 E/\mathbf{Q} の存在が分かっている. また, 楕円曲線 $E_1: y^2 + y = x^3 + x^2$ (導手 43) は $E_1(\mathbf{Q})_{\text{tors}} = \{O\}$ を満たし, かつ, その \mathbf{Q} -isogeny 類には \mathbf{Q} 同型類が一つしか存在しないので $E_1(F)_{\text{tors}} = \{O\}$ であり, 楕円曲線 $E_3: y^2 = x^3 - 4$ は $E_3(\mathbf{Q})_{\text{tors}} \simeq \mathbf{Z}/3\mathbf{Z}$ を満たし, かつ, すべての square-free な整数 D に対し $E_3^D(\mathbf{Q})_{\text{tors}} = \{O\}$ を満たすので $E_3(F)_{\text{tors}} \simeq \mathbf{Z}/3\mathbf{Z}$ である. これらのことは次の補題から即座に分かる.

補題 4.1. E を \mathbf{Q} 上定義された楕円曲線をするとき, 異なる整数 D_1, \dots, D_m (square-free または 1) が存在して次を満たす:

$$E(F)_{(2')} \simeq E^{D_1}(\mathbf{Q})_{(2')} \oplus \cdots \oplus E^{D_m}(\mathbf{Q})_{(2')}.$$

さらに, 各群 $E^{D_i}(\mathbf{Q})_{(2')}$ は $E(F)_{(2')}$ のある \mathbf{Q} 有理部分群と同型である.

さらに定理 2.1 において,

$$\mathbf{Z}/4\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/4\mathbf{Z}, \mathbf{Z}/4\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/8\mathbf{Z}, \mathbf{Z}/8\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/8\mathbf{Z}, \mathbf{Z}/4\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/12\mathbf{Z}, \mathbf{Z}/4\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/16\mathbf{Z}$$

の各 type を $E(F)_{\text{tors}}$ として実現するような楕円曲線 E/\mathbf{Q} の存在も分かっている. 従って後は,

$$\begin{aligned} &\mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/10\mathbf{Z}, \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/6\mathbf{Z}, \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/12\mathbf{Z}, \\ &\mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/2\mathbf{Z}, \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/4\mathbf{Z}, \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/8\mathbf{Z}, \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/16\mathbf{Z} \end{aligned}$$

について, 同じく E/\mathbf{Q} の存在を言えばよい.

(i) $E(F)_{\text{tors}} \simeq \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/10\mathbf{Z}$. E/\mathbf{Q} を $E(\mathbf{Q})_{\text{tors}} \simeq \mathbf{Z}/10\mathbf{Z}$ なる楕円曲線とすると, 定理 1.1 と命題 3.2, 3.3 より $E(F)_{\text{tors}} \simeq \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/10\mathbf{Z}$ であることが分かる.

(ii) $E(F)_{\text{tors}} \simeq \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/6\mathbf{Z}$. $E: y^2 = x^3 + 1$ とすると, $E(\mathbf{Q})_{\text{tors}} = \langle (2, 3) \rangle \simeq \mathbf{Z}/6\mathbf{Z}$ であり, すべての square-free な整数 D に対し $E^D(\mathbf{Q})_{\text{tors}} \simeq \mathbf{Z}/2\mathbf{Z}$ が成り立つので, 補題 3.4 より $E(F)_{(2)} \simeq \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/2\mathbf{Z}$ であり, 補題 4.1 より, $E(F)_{(2')} \simeq \mathbf{Z}/3\mathbf{Z}$ であることが分かる. 従って, $E(F)_{\text{tors}} \simeq \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/6\mathbf{Z}$ である.

ここで, 簡単な補題を準備する (証明は補題 2.2 を使えば容易になされる).

補題 4.2. E を

$$E: y^2 = x(x + a + b\sqrt{c})(x + a - b\sqrt{c}), \quad a, b \in \mathbf{Z}, \quad c: \text{square-free な整数},$$

で与えられた \mathbf{Q} 上の楕円曲線とし, $Q_1 := (-a - b\sqrt{c}, 0)$, $R_1 := (-a + b\sqrt{c}, 0)$ とおく. このとき, $Q_1 \in 2E(F)$ (これは $R_1 \in 2E(F)$ と同値である) ならば $c = -1$ である.

(iii) $E(F)_{\text{tors}} \simeq \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/12\mathbf{Z}$. $E: y^2 = x(x^2 + 1177x + 50186)$ とすると, $E(\mathbf{Q})_{\text{tors}} = \langle (0, 0) \rangle \simeq \mathbf{Z}/12\mathbf{Z}$ である. $f(x) := x^2 + 1177x + 50186$ とおけ

ば, $f(x)$ の判別式 1184585 の square-free part は -1 ではないので, 補題 4.2 より $E(F) \not\cong \mathbf{Z}/4\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/4\mathbf{Z}$ である. 従って, $E(F)_{\text{tors}} \simeq \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/12\mathbf{Z}$ が分かる.

(iv) $E(F)_{\text{tors}} \simeq \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/2\mathbf{Z}$. $E: y^2 = x(x^2 - 2)$ とすると, $E(\mathbf{Q})_{\text{tors}} \simeq \mathbf{Z}/2\mathbf{Z}$ であり, すべての square-free な整数 D に対し $E^D(\mathbf{Q})_{\text{tors}} \simeq \mathbf{Z}/2\mathbf{Z}$ が成り立つ. 従って, 補題 3.4 と 4.1 から $E(F)_{\text{tors}} \simeq \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/2\mathbf{Z}$ が分かる.

(v) $E(F)_{\text{tors}} \simeq \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/4\mathbf{Z}$. $E: y^2 = x(x-1+2\sqrt{-2})(x-1-2\sqrt{-2})$ とすると, $E(\mathbf{Q})_{\text{tors}} = \langle P_2 \rangle \simeq \mathbf{Z}/4\mathbf{Z}$ ($P_2 := (3, 6)$) であり, 補題 4.2 より $Q_1 := (1-2\sqrt{-2}, 0) \notin 2E(F)$ が分かるので, $E(F) \not\cong \mathbf{Z}/4\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/4\mathbf{Z}$ である. $1+\sqrt{-2}$ は F で square ではないので, 補題 2.2 から $P_2 \notin 2E(F)$ が分かり. 同様に $P_2 + Q_1 \notin 2E(F)$ も分かるので, $E(F) \not\cong \mathbf{Z}/8\mathbf{Z}$ である. よって, $E(F)_{(2)} \simeq \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/4\mathbf{Z}$ が分かる. すべての square-free な整数 D に対し $E^D(\mathbf{Q}) \not\cong \mathbf{Z}/3\mathbf{Z}$ となることは, [4] の Theorem (III) を使えば容易に示される. 従って, 補題 4.1 から $E(F)_{\text{tors}} \simeq \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/4\mathbf{Z}$ が分かる.

(vi) $E(F)_{\text{tors}} \simeq \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/8\mathbf{Z}$. $E: y^2 = x(x-62+6\sqrt{-7})(x-62-6\sqrt{-7})$ とすると, $E(\mathbf{Q})_{\text{tors}} = \langle P_3 \rangle \simeq \mathbf{Z}/8\mathbf{Z}$ ($P_3 = (32, 192)$) であり, 補題 4.2 より $Q_1 := (62-6\sqrt{-7}, 0) \notin 2E(F)$ が分かるので, $E(F) \not\cong \mathbf{Z}/4\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/4\mathbf{Z}$ である. $5-\sqrt{-7}$ は F で square ではないので, 補題 2.2 から $P_3 \notin 2E(F)$ が分かり, 同様に $P_3 + Q_1 \notin 2E(F)$ も分かるので, $E(F) \not\cong \mathbf{Z}/16\mathbf{Z}$ である. よって, $E(F)_{(2)} \simeq \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/8\mathbf{Z}$ が分かる. 従って, 定理 1.1 より $E(F)_{\text{tors}} \simeq \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/8\mathbf{Z}$ が分かる.

(vii) $E(F)_{\text{tors}} \simeq \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/16\mathbf{Z}$. $E: y^2 = x(x^2 - 47x + 16^3)$ とすると, $E(\mathbf{Q})_{\text{tors}} = \langle (16^2, 15 \cdot 16^2) \rangle \simeq \mathbf{Z}/8\mathbf{Z}$ である. $E(F)_{\text{tors}} \simeq \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/16\mathbf{Z}$ であることは次の事実から従う:

$E(\mathbf{Q})_{\text{tors}} = \langle P \rangle \simeq \mathbf{Z}/8\mathbf{Z}$ とするとき, もし $E' := E/\langle [4]P \rangle$ が $E'(\mathbf{Q})_{\text{tors}} \simeq \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/8\mathbf{Z}$ を満たすならば, $E(F)_{\text{tors}} \simeq \mathbf{Z}/2\mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z}/16\mathbf{Z}$ である.

参考文献

- [1] Y. Fujita, Torsion subgroups of elliptic curves with non-cyclic torsion over \mathbf{Q} in elementary abelian 2-extensions of \mathbf{Q} , preprint.
- [2] A. W. Knapp, *Elliptic Curves*, Princeton Univ. Press, Princeton, NJ, 1992.

- [3] M. Laska and M. Lorenz, Rational points on elliptic curves over \mathbf{Q} in elementary abelian 2-extensions of \mathbf{Q} , *J. Reine Angew Math.* 355 (1985), 163–172.
- [4] D. Qiu and X. Zhang, Explicit classification for torsion subgroups of rational points of elliptic curves, *Acta Math. Appl. Sinica (English Ser.)* 18 (2002), 539–548.